アマチュア演劇 あきた

2016年 3月 発行
年一回発行
秋田県演劇団体連盟

新たな〈演劇の時代〉を託されて

秋田県演劇団体連盟
理事長
富樫 信孝

平成二十七年四月の総会・理事会で、坂本前理事長から次代目理事長を引き継ぎました。また、坂本さんと交代する形で（社）秋田県芸術文化協会理事にも就きました。とりあえず、連盟五十周年となる平成三十一年を視野に入れながら、新たな〈演劇の時代〉を探りたいと思っております。

理事長としての最初の務めは、五月に開催される第十四回手話劇フェスティバル（ハート）での乾杯でした。この企画は、昨年三月にお亡くなりになられた我々の大先輩、たかはししげきさんが、生前強くこだわった「人生訪問三本」を一挙上演するという企画公演でした。その主旨の合間（転換中）に、国際障害者芸術祭さんの紹介で、高校生の頃からお世話になったしげきさんを偲んで、トークをさせていただきました。

十一月、県南文協さんと東北・北海道芸術文化団体協議会静岡紙「北斗」四十号の原稿依頼がきました。「秋田県の演劇の現状と課題」というタイトルでしたので、早速各劇団の代表に「演劇の現状と課題」で原稿（二〇〇字）を書いてくださいと依頼し、それをまとめて「約三〇〇字」今年の一月に原稿を仕上げました。実は、十四年前にも同じ依頼がありその頃の現状を書きました。たかのすず劇団「劇団」演劇集団すかんぽ」の名前がありますが、劇団はちのすず「劇団ウィルパワー」はまだ加盟していませんでした。この時は十四団体が加盟していました。今は、十二団体。高齢化と付き合いながら、若い世代の入団と加盟団体の増加を図りたいと願っています。

二月、県・市連携の新文化施設整備方針に関する要望書を、懸垂秋田市長と細井副知事に手渡しできました。県演劇団体連盟としては提出する為、各劇団にも新しいホールに対しての在文や、劇場に関しての各自の考えを述べてもらいました。早ければ、平成三十四年に開館予定です。来年から基本設計と運営管理計画に入るようです。ここが肝心です。五十年後に「キャスト・スタッフ共使い易く、観客も観易く・聞き易い劇場だ」と言われるような文化施設を築らないといけないと思っています。

「しげきさん、ありがとう」

秋田県演劇団体連盟　顧問
横手アマチュア演劇研究所
坂本 好逸

日本のアマチュア演劇の歴史は戦後に始まった。秋田県内は勿論、正に様子の演劇活動もしかりである。その歴史を紐解いて見た諸先輩の中に、たかはししげきさんがいた。平成十一年に演劇部門では初めての「秋田県芸術選奨」を受賞する等、その舞台への活きいきとした表現力は常に輝いてみえた。私とも年程にわたり同僚であり、師であった「しげきさん」が他界したとき（二〇一四・三）私も舞台に立ち続ける事を心に誓った。更に「しげきさん」への感謝と追悼の思いをこめて「第三回横手演劇フェスティバル」の企画へと繋らんだ。

演目は■「戦後の糸（茶川龍之介原作）」（脚本・平田孝夫氏（劇団団台）2013年 3月）■「無意の害について（ユネスコ憲章前文）」（脚本・佐藤勇氏（三人の会）■「夏物語（永井荷風作）」（脚本・坂本こういち（横手アマチュア演劇研究所）と、すべて「しげきさん」が上演した人気作品である。更に幕間には「しげきさん」が出演した秋田市時代と仙台市時代に縁交のあった方々のトークを頂いた。秋田市からは宮崎智美氏（当連盟理事長）安倍直美さん（ひいらぎの会）、仙台市からは佐藤 勇氏（劇団団台）加藤俊夫氏（台響スタッフ）何れも時間が少なく、語り尽くせない内容だった。改めて「しげきさん」の偉さを再認識した舞台であった。が、何時までもそこに浸って居てもいられない。何しろ「第三回」と名打ったからである。

「しげきさん」は打ち上げの時も、二次会、歌う時も口癖のように「あのね…、次はねえ…、やろうよ…」と江戸弁であつく語っていた。…今でも聞こえてくる。

平成26年度 公演記録

年月日		主催 / 公演名	作	演出	会場
平成二十六年	8	演劇を楽しむ会 / 鹿角市戦没者顕彰式		高木 豊平	鹿角市 広域交流センター
		大館市民劇場 /「そして僕は劇団員になった」	小笠原 ヒロキ	小笠原 ヒロキ	大館市民文化会館
		演劇を楽しむ会/平和記念のつどい「戦没者慰霊朗読」		高木 豊平	鹿角市 広域交流センター
	9	現代小劇場/国文祭現代舞踊季節事業「成川為三と子ども達」	佐藤晴生、今立等子	今立 等子	ミットプラザ
		劇団ウィルパワー 創立20周年企画　第13回演劇公演 「星降させてちょうだい！」	加賀屋 孝之介	加賀屋 孝之介	秋田市文化会館 小ホール
	10	劇企画社 / 子ども歌舞伎「南市始後三年能會戦」	高橋 純	坂本 好逸	旧秋田市 木戸五屋兵衛村等設会場
	11	秋田県演劇団体連盟/国文化祭「演劇フェスティバル」 「バッティングシアター」	小林 恵喜	高木 豊平	小坂町 劇場館
		現代小劇場 / 第29回国文祭参加作品 第34回「金魚物語」	伊藤 洋文	梅田敏郎、伊藤洋文	現代市文化会館 大ホール
平成二十七年	3	大館市民劇場　シアター合奏公演 「北前の城太郎～大館なんちゃって冒頭～」 「Tickets to Ride k～前まりはこの駅から～」	桜庭 司 ダニエル横井	桜庭 司 高橋 奈穂子	御成座
		劇団ウィルパワー 2014年度3月巡回公演公演を以て、 劇団ウィルパワーの代表が代わる件に伴う特別企画公演公演 ①「この船に乗んで」 ②「本日は、」 ③「だるまさんがころんだ」	加賀屋 孝之介 鎌西 祐美 渡辺 広之	加賀屋 孝之介 鎌西 祐美 渡辺 広之	ココラボラトリー

1995年旗揚げ「劇団能代小劇場」設立二十三周年を迎えて

劇団能代小劇場
飯坂 恵子

我が劇団能代小劇場（以下小劇場）も平成四年七月二十三日の設立総会から早いもので二十三年目を迎え、数えて十二回目の自主公演として、今年七月四日能代市文化会館中ホールにて作：唐笠之・演出：伊藤洋文による「闇が目にしみる」を上演。

開幕を告げるベルが鳴り客電がおち、一瞬の静寂、そして何度舞台を踏んでも最初のセリフが出るまでの、口から心臓が飛び出しそうな緊張感。それでも幕が下りるとまんな事はすべて忘れた舞台に立ちたくなる。実生活では決して経験することの出来ない、そんな人生を小劇場で上演する芝居を通して経験している。

また、小劇場は旅公演の楽しさも教えてくれた。平成十年には青森県今別町にて「出来とその弟子」を公演。真冬の芝居を真夏の舞台で上演した時は、流れ出た汗で客が前にこぼろうていて大変だったが、それでも同じ釜の飯を喰うことでの連帯感も生まれる。

二十三年という月日は劇団交代という課題も突きつけてくる。結成当時華を言っていたメンバーも、一人二人と減少の国へ旅立ちあるいは高齢のため退団をし、現在は団員数十三名。ご多分にもれず高齢化が進んでいる。それでも上演したい気持ちはあふれており、足りない役者はエージェントからのおい客演を招き役者予備軍を育てているのだが……。

さあ、次に開幕を告げるベルが鳴り客電がおち、一瞬の静寂が訪れるのは、そしてその作品は……もうご紹介！

編集後記

平成二十六年度の秋劇団の公演記録を整理しながら、お借りした各劇団の公演チラシを眺めていると、各劇団が国文祭に参加して活発に活動していたのを思い出しました。

秋田県演劇団体連盟からも小坂町で開催された「演劇フェスティバル」に参加しました。合同公演のため練習場所の工面など大変だったのも今では良い思い出です。

来年になりますが、この原稿も忙しい中、原稿を快く引き受けて頂いた皆様に感謝します。